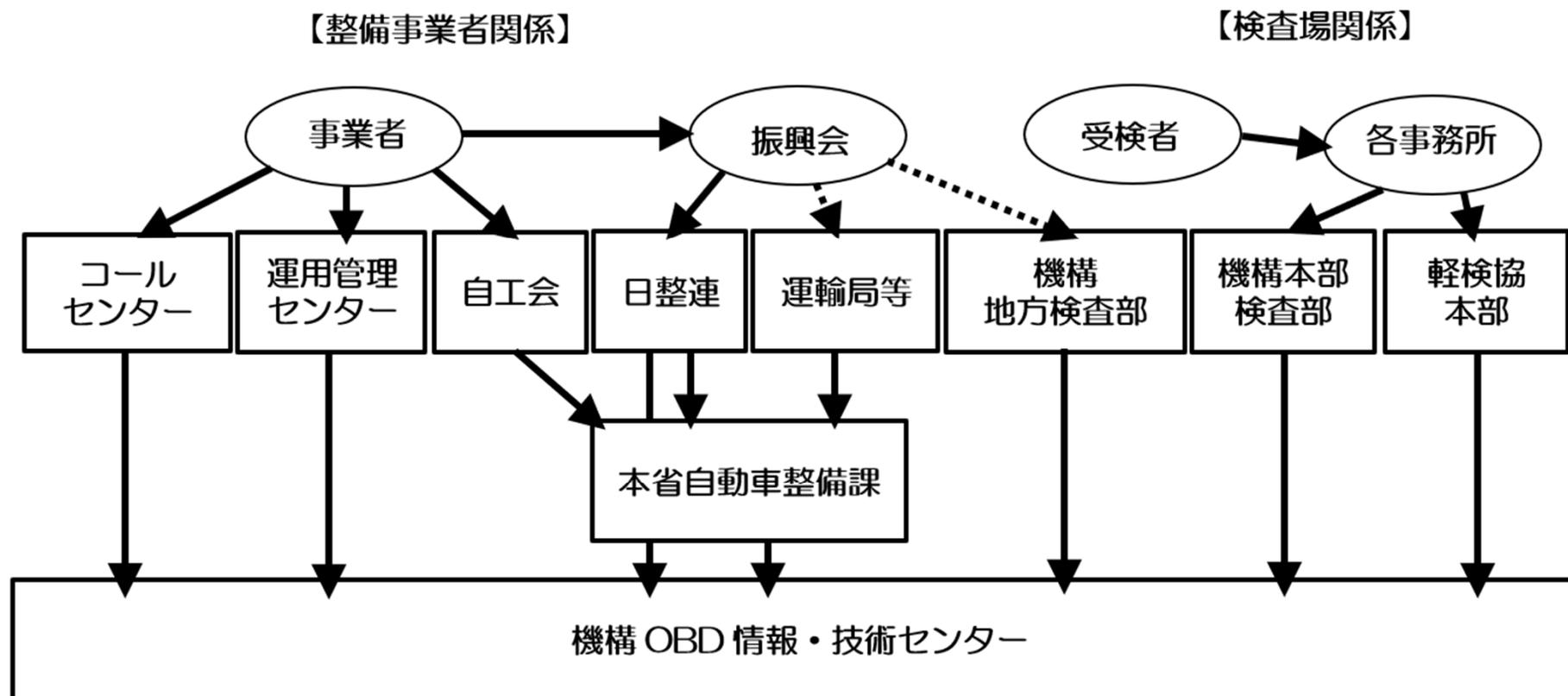


プレ運用等において明らかとなった課題

プレ運用等において明らかとなった課題の収集

- 10月1日から開始されたプレ運用を通じて明らかとなった課題について把握するため、整備事業関係者及び検査場関係者から情報収集を実施した。
- 情報収集フローは下図のとおりであり、独立行政法人自動車技術総合機構において一元的に課題を集約することとしている。

※情報収集期間：令和5年10月1日～13日（左記期間以降も課題集約を実施中）



プレ運用等において明らかとなった課題

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
1	指定	今保有している整備用のスキャンツールが将来検査用スキャンツールとして使用できるか不安である。	今後も、本準備会合資料の「検査用スキャンツールの販売状況・予定」を更新し、国土交通省のHPに掲載します。
2	指定	整備用のスキャンツールとして購入したものが、認定品と同一商品であることから、検査用スキャンツールとしてそのまま使用できると思っていたが、追加のオプション品やソフトウェアのアップデートが必要であることが判明した。ツールメーカーからこのようなことを周知しなければ混乱が予想される。	ツールメーカーに対し、認定検査用スキャンツールとして使用するための要件等をユーザーに対して周知するように指導します。
3	認証	検査用スキャンツールを装着させる際、OBD端子を損傷させてしまったり、他の自動車部品と干渉する可能性がある。	干渉の懸念がある具体的な車種、スキャンツールの型式、作業状況等の情報をいただければ、自動車メーカー、スキャンツールメーカーと対応を検討します。
4	認証	検査用スキャンツールの挿抜やOBDの通信によりECUに対してエラーとなる信号を検知させてしまうことにより、警告灯が点灯したり特定DTCが検出されることがあった。	問題が生じた具体的な車種、スキャンツールの情報をいただければ、調査します。
5	認証	OBD検査の対象車がどのような車両か分からない。	OBD検査対象車については、車検証の備考欄に「OBD検査対象」の記載があります。この点、整備主任者研修等で周知してまいります。
6	認証	OBD点検とOBD検査とOBD確認の違いについてよく分からない。	今後、この3つの用語の制度面の違いについて、整備主任者研修等で説明して参ります。
7	認証	特定の特定DTCが検出された場合にユーザーに対して説明することが難しいが、簡単に説明できるような案内や周知は事前にされるのか。	特定DTC照会アプリから出力できるOBD検査結果の帳票には、特定DTCの名称(故障部位やその状態)が表示されます。

プレ運用等において明らかとなった課題

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
8	認証	特定DTC照会アプリをインストールまたはアップデートする際に、PCや社内ネットワークのセキュリティ設定を変更する必要があり、FAQやマニュアルでは確認できなかった。	OBD検査ポータルによくある質問(FAQ)には、インストールやアップデートする際のエラー事象等とその解決法を掲載しておりますが、ご不明な場合はOBD検査コールセンターにお問い合わせいただければ、個別に対応させていただきます。
9	振興会	検査用スキャンツールのPCへの接続手順を誤ると正しく認識しないことが分かった。メーカー、機器によって同様の注意点があると考えられる。	正しい使用方法をユーザーに周知するよう、ツールメーカーに対して指導してまいります。
10	振興会	会社の制約等により、セキュリティ設定を変更できないような整備工場ではアプリのインストール等が実施できないため、OBD検査に対応することができない。	OBD検査システムでは政府が示すガイドラインに基づきシステム設計をしており、セキュリティレベルを高めております。そのため、業務上やむを得ないものとして社内のセキュリティ設定の変更等に関してご理解いただけますようお願いいたします。
11	振興会	OBD検査ではPC操作が必須となるため、PC操作に不慣れな事業者から振興会に問合せがあり、通常業務に支障が生じている。	OBD検査コールセンターにおいて、そのような事業者への対応をさせていただきます。なお、振興会におかれましても、会員の整備事業者への説明等にご協力いただければ幸いです。
12	振興会	レディネスコードの中にはDTC消去後、即時完了となるものがあり、その場合、排ガスに係るOBDの診断がされていないにも関わらず適合となってしまう場合がある。	基準上、少なくとも1つのレディネスコードが記録され、特定DTCが記録されていなければ適合となります。
13	振興会	OBD検査対象車にも関わらず、プレ運用にて排ガスOBDのOBD確認しか実施できなかった。安全OBDの確認ができるようにしてほしい。	車検証に「OBD検査対象」と記載があっても、型式指定から2年、新規登録から10か月を経過していないものは、OBD検査対象外と判定されます。当該期間が経過したものは、安全OBDの確認を行うことが可能となります。
14	振興会	スキャンツールを用意できない認証工場があるため、振興会や商工組合等が保有する予備検査場に対してもOBD検査システムのID等を付与していただきたい。	ご意見を踏まえ対応を検討いたします。

プレ運用等において明らかとなった課題

項番	意見元	課題	国土交通省、(独)自動車技術総合機構の対応
15	検査場	検査用スキャンツールを差し込む際、車両によって設置場所及びデータリンクコネクタの向きが一定しておらず、位置確認及び差し込みに時間を取られる。	OBD検査対象車のデータリンクコネクタの位置や差し込む際の角度については、今後アプリに表示されます。
16	検査場	カーシェアリングの車両ではドアの解錠や運行中の車両の動作等のモニターのためにデータリンクコネクタにカーシェアリング装置が取り付けられており、当該装置を外すとエンジン始動不可となる。そのため、車両の持込等も含めたOBD検査を実施するための対策が必要である。	検査を受ける車両は、検査前に検査を行える状態にしておくことが原則ですが、そのような問題について調査します。
17	その他	プレ運用開始後、OBD検査システムへログインができないうことによる問い合わせが増加した。	調査の結果、大部分は、「クライアント証明書を選択していなかったためログインできなかった」「管理責任者のID・PWでアプリにログインしようとしていた」等のマニュアル通りに操作していないことによるものでした。よりユーザーに分かりやすいものとなるよう、マニュアルの改訂等を随時行ってまいります。